

昭和49(1974)年9月1日、「狛江市猪方地先の多摩川堤防が決壊」の一報がマスコミを通じて日本全国に伝えられました。台風16号の接近に伴う豪雨による増水が続いていた中でのことでした。2日未明には多摩川沿い民家が倒壊、濁流に飲み込まれていく様子は、突如として牙をむく自然の脅威を強く印象付けました。

令和6(2024)年は、多摩川堤防決壊から50年という節目の年を迎えます。

あの時、何が起こったのか、どんな対応がなされたか。過去の災害から学び、未来へつなげる取り組みを行っていきます。



民家19戸が流失



自衛隊による堰堤爆破



濁流により挟られた猪方地先(上空から)

▼総合水防訓練(6月16日)の実施

担当: 安心安全課

多摩川緑地公園グラウンドで、各関係機関と連携した大規模な劇場型水防演習をはじめ、市民参加型防災体験や展示を実施

▼シンポジウム(9月1日)の開催

担当: 安心安全課

過去の災害から学び、自助・共助の重要性等を伝えるシンポジウムを開催

※詳細内容はあらためてお知らせします。

▼「多摩川決壊の碑」リニューアル

担当: 環境政策課

大水害があったことを後世に継承していくため、多摩川決壊の碑をリニューアル



現在の「多摩川決壊の碑」

【問い合わせ】

- ・狛江市 総務部 安心安全課長 鈴木 03(3430)1111 (内線8200)
- ・狛江市 環境部 環境政策課長 秋山 03(3430)1111 (内線2565)